

一乗谷朝倉氏館跡の調査（2）

1969年度建造物研究室・平城宮跡発掘調査部の調査 4

福井県足羽郡足羽町一乗谷にある朝倉氏館跡の1969年度の調査は、主殿の北・西方と園池東方の山腹の約2,700㎡について実施し、主殿を中心とする館内の主要建物の配置を明らかにした。検出した主な遺構は、建物9・塀1・井戸1・土塋3・石敷3・溝などである。

主殿の西北には東西建物があり、主殿北面西端の2間分でむすびついている。この付属建物は、東西両部分にわかれ、それぞれ梁行寸法を異にしているが、ともに内部には炉、あるいはカマド状の石積み設備をもち、また南辺には、石敷の踏み出しをそなえた出入口がある。

主殿の東北隅には主殿の柱列に合わせて作った小建物がとりついている。今■調査した他のすべての建物が、1.89m（＝6尺2寸5分＝1間）を基準として作っているのに対して、この建物は、1.03mを基準とする柱間寸法をとっている。小建物の南には東にのびる通路があり、また東には、長方形の穴の中に玉石をならべて壁とした遺構（方2m、深さ0.3m）と、凝灰岩の切石（長さ0.3m・幅0.25m、高さ0.5m）を四方（方0.9m）に配し、その内部に黒い灰層が堆積している遺構とがある。後者は風呂かもしれない。

小建物から通路が北にむかってのびて、東西棟建物にたっている。この建物の南^{ひまし}廂に接する東西溝の北の側壁は玉石、南側壁は凝灰岩とつかいわけている。

通路の東には東西棟があり、その内部北半には石敷きがある。通路の西には南北棟がある。その南部には礎石がないが、ぬきとったものか、本来、土間だったのかいずれかわからない。

主殿北西隅付属建物の北方5mには東西棟がある。両妻に出入口があったらしい。なおこの建物とその西方の石敷とは、いずれも他の建物と平行せず、西でやや南に振れている。これは北面土塁の方向に規制された結果である。

主殿に北接する2段石積の遺構は北方の建物群とへだてるための築地の基壇と考えられる。

園池東方の山腹には、つづら折れに屈折して池にそそぐ導水路がある。また、このほかに園路・石橋も検出した。

遺物はおもに、主殿西北の付属建物、東北付属の小建物と、その北方の南北棟建物周辺、溝・土塋などから出土した。陶器・土師器のほかに、青磁・白磁・染付・天目、瀬戸製飴釉の耳つき茶入と把手付水差とがある。また木製品には、黒漆をかけた容器、机の脚があり、頭部を菊花状に作り赤塗をかけたギボン様のものである。

第2図 一乗谷朝倉氏館遺構配置図